

## カタカナとひらがな

京都大学が東京・品川の「京大東京オフィス」で開く連続講座「東京で学ぶ 京大の知」(朝日新聞社後援)。シリーズ1「王朝文学の世界」の3回目となる24日は、京大大学院文学研究科の大槻信准教授が「王朝時代のことばと文字」と題して講演した。平仮名と片仮名という2種類の仮名が生まれた王朝時代を中心に、世界一複雑だと言われる日本語の文字表記が成立した過程や背景に迫った。

### ●日本語は複雑か

「つい数年前まで、入学シーズンにはサークルの入会勧誘ビラを渡されていました」

42歳、2児の父である大槻准教授は、自ら認める「童顔」。講演の冒頭、こんなひと言で聴講者の笑いを誘った大槻氏は、随所にエピソードや笑い話をまじえながら、堅苦しくなりがちなテーマをわかりやすく語っていった。

「複雑な日本の言語とその表記システムは、福音を述べ伝えるのを阻止するために作られた悪魔の発明だ」



大学院文学研究科 大槻信准教授

大槻氏は冒頭で、フランシスコ・ザビエルの言葉を引用した。ザビエルは日本に初めてキリスト教を伝えたスペイン人宣教師。ただ大槻氏によると、日本語自体は他の世界の言語と比べて特に変わった言語でも、難しい言語でもない。難しいのは「日本語の文字のあり方」だという。「数千ある漢字に加えて平仮名、片仮名を使い分け、漢字を音読したり、訓読したりする。さらにルビまで加える。このような複雑さに匹敵する言語は、現在の世界の諸言語には一つもない」

なぜ表記が複雑なのか。大槻氏は日本語がたどってきた歴史を指摘した。

日本語の単語の4分の3は欧米からの外来語か、中国からの漢語が占める。しかし、繰り返し使われる基本的な単語は本来の日本語である和語で、助詞や助動詞といっ

た文法にかかわる単語にも和語しか使われていない。しかも漢字をそのまま中国風に使うのではなく、日本語を表すのにふさわしい平仮名や片仮名を生み出した。「日本語は外来の要素を大幅に採り入れた上で、日本人にあったものに仕立て直している」という。

### ●仮名の誕生

では日本語はどう文字を獲得してきたのか。

元々文字がなかった日本語がまず手にしたのは漢字だった。しかし、漢字が表すのは、日本語とは言語の系統がまったく異なる中国語だ。「(日本語を漢字で表すのは)そもそも無理があるところで、いかに工夫を凝らしてきたか。それが日本語における文字の歴史だ」と大槻氏は解説する。

大槻氏がまず挙げたのは、漢字だけを用いて日本語を表そうとする万葉仮名だ。「暴走族の落書きを想像していただくとわかりやすい。(例えば)ヨ・ロ・シ・クと全部漢字で書いてある」

代表的な書き方が、漢字の音だけを借りて書く仮名表記。日本語の音を一音ずつ表しているため、正確に語形を残しているという特徴がある。ただ文が長くなり、意味も分かりにくい。一方、万葉仮名には漢字の意味を使って日本語を書き留めようとする訓字表記もあった。非常に短く表せるが、今度は正確な読み方がわからない。そこで生まれたのが、折衷の音訓交用型だった。

しかしそれでも「漢字を意味で使っているのか、音で使っているのかが、文字を見ただけではわからないという決定的な弱点」があった。その流れのなかで、奈良時代の終わり頃から平安時代の最初の頃に生み出されたのが、平仮名と片仮名だったという。

### ●平仮名と片仮名

平仮名は漢字を下敷きに草書体に崩したもので、片仮名は漢字の一部を抜き出したもの。いずれも音だけを持っており、意味はまったく持っていないのが特徴だ。

しかし、なぜ2種類の仮名があるのかという疑問が残る。その疑問に答えるために、大槻氏は平安時代の文字の世界が「漢字の世界」と「それ以外の世界」に大きく分けられることを示した。

「それ以外の世界」に属していたのが平仮名だ。長く「仮名」や「女手」と呼ばれ、女性の使い手を中心に物語や日記、和歌、手紙で用いられてきた。女性にとって漢字を書くことはあまり得意でなく、好ましいことでもないと考えられていたという。

一方「漢字の世界」に属していたのが片仮名だった。そもそも漢文で書かれた本や経を勉強する際に日本語でメモをとるために生み出された文字だったといい、用いたのは漢字や漢文と付き合いが深い男性だった。

主に女性が使い、口語的で和文的な言葉が多かった平仮名と、主に男性が使い、訓読語と呼ばれる文語的な日本語を書き留めた片仮名。同じ意味を表すにも、異なった単語を使っていたという。大槻氏は「平安時代という同じ時代なのに、言葉の世界にいくつかの相、位相の違いがあったらしい」と読み解く。

平安時代の終わり頃から鎌倉時代にかけて、この二つの言葉の世界が入りまじり、現代に至る日本語表記の基本形になったという。「二つの世界があったということが、日本語が平仮名、片仮名という2種類の文字を生み出し、長く現在に至るまで使い続けている理由だと考えられる」と大槻氏は締めくくった。



(※原稿及び写真は朝日新聞社提供)